

第 4 回 館山市議会定例会会議録
(第 4 号)

1 昭和63年12月23日(金曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 27名

1番 脇田 安保
3番 田沢 勝信
5番 岩村 勝弘
7番 生稲 陸
9番 山口 康雄
11番 神田 守隆
13番 山中金治郎
15番 横溝 功
17番 石井 謀
19番 川名 正二
21番 辻田 実
23番 流山源次郎
26番 近藤 好雄
28番 飯田 義男

2番 永井 龍平
4番 庄司二三男
6番 山崎 雅己
8番 鈴木 勝美
10番 鈴木 忠夫
12番 榎本 春光
14番 小宮 利夫
16番 石井 昌治
18番 日下 君敏
20番 福原 勤
22番 黒川 平治
25番 渡辺 昭夫
27番 林 豊

1 欠席議員 なし

1 出席説明員

市長 半澤 良一
収入役 渡辺 弘
総務部長 渡辺 秀夫
経済部長 安西 良一
教育委員会 杉村 芳枝
教育委員会 加藤 利
選挙管理委員会 鈴木 重司
監査委員 斎藤 明
農業委員会 会長

助役 小倉 澄男
市長公室長 錦織 茂
民生部長 小幡 清之
水道課長 鈴木 信一
教育委員会 福原 修
教育委員会 佐藤 澄雄
選挙管理委員会 事務局長 熊坂 桂一
監査事務局 池田 六郎
農業委員会 事務局 長

1 出席事務局職員

事務局 局長 川上 義雄
書記 鈴木 哲
書記 加藤 浩一

事務局補佐 兵藤 恭一
書記 鈴木 修一

1 議事日程（第4号）

昭和63年12月23日午前10時開議

- 日程第1 { 議案第43号 館山市職員給与条例の一部を改正する条例
の制定について
議案第44号 字の区域及び名称の変更について
議案第47号 昭和63年度館山市一般会計補正予算（第3号）
- 日程第2 議案第48号 昭和63年度館山市国民健康保険特別会計補正予算（第2号）
- 日程第3 { 議案第45号 館山市神余農道、大井農道及び竹原農道災害復旧事業分担金徴収条例の制定について
議案第46号 館山市宝貝及び二子治山事業分担金徴収条例の制定について
議案第49号 昭和63年度館山市ユースホテル特別会計補正予算（第1号）
- 日程第4 { 請願第14号 旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する請願書
請願第15号 公立学校事務職員・栄養職員の給与の国庫負担削減に反対する請願書
- 日程第5 請願第16号 米の市場開放阻止に関する請願書
- 日程第6 発議案第5号 法務局職員の増員に関する意見書について

開 議 午前10時04分

○議長（飯田義男君） 本日の出席議員数27名、これより第4回市議会定例会第4日目の会議を開きます。

議案の配付

○議長（飯田義男君） 議案を配付いたさせます。

議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（飯田義男君） 日程第1、議案第43号、議案第44号及び議案第47号の各議案を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

◎議長（飯田義男君） ただいま議題となりました各議案は、ともに12月16日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長小宮利夫君。御登壇願います。

（総務委員会委員長小宮利夫君登壇）

◎総務委員会委員長（小宮利夫君） ただいま議題となりました議案第43号、議案第44号及び議案第47号に係る総務委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る12月16日開会の本会議において本委員会に付託されました議案等について、19日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等につきまして主なる事項を申し上げます。

まず、議案第43号館山市職員給与条例の一部を改正する条例の制定についてであります。本市のラスパイレス指数について説明を求めましたところ、本年度は108.6であり、条例改正後のものについては出していないとの説明がありました。

次に、議案第47号昭和63年度館山市一般会計補正予算第3号であります。

民生費中、地域ぐるみ福祉ネットワーク事業補助金50万円が計上されておりますが、事業の内容、さらに今回の補正の理由について説明を求めましたところ、これは県の事業で、県内全域に地域福祉圏を設定し、社会福祉協議会を推進母体として行政機関、社会福祉施設、ボランティア活動等を統括的に結びつけ、地域の福祉事業についてきめ細かい対応をするため広域福祉圏、基本福祉圏、小域福祉圏に分け、事業を行っているもので、小域福祉圏については、原則的に小中学校区を対象に地区を設定し、食事サービス、友愛訪問等のボランティア活動を中心とした福祉サービスを行っている。館山市においては、社会福祉協議会におい

て15の支部を設定しており、その支部を小域福祉圏とし、63年度から、そのうちの豊房、三軒町、八幡、神戸、館野の5地区が認められたことに伴う補正である。すでに館山地区で実施されており、さらに64年度において4地区、65年度において5地区が認められる予定であるとの説明がありました。

さらに、社会福祉協議会の支部の活動にあたって予算は十分であるかとの指摘に対し、社会福祉協議会において250万円を予算化し、世帯数等に応じて支部に配分され活動が行われているとの説明がありました。

次に、予備保母設置費補助金94万5000円の補正がされておりますが、この制度の内容について説明を求めましたところ、定員60名以上の私立保育園で、保母の労働条件の改善、保育内容の充実ということから、保母定数を超えて保母を設置した場合の園に対する補助金であり、市内4園が対象である。なお、1人当たりの補助基準額については、決算見込みで12万3600円であるとの説明がありました。

次に、衛生費中、じん芥処理費において臨時職員賃金が計上されていますが、関連して、収集作業の合理化等について検討されるよう要望いたしましたところ、現在、不燃物のごみについて民間委託を検討しているとの説明がありました。

次に、農林水産業費中、他用途利用米とも補償補助金62万1000円について説明を求めましたところ、米の生産調整については、62年度まで水田農業確立対策事業が行われていたが、63年度からさらに米需給均衡化緊急対策事業ということで上のせ分がきている。今回の補正については、両対策で配分された転作面積のほかに、水田農業確立対策他用途利用米1100俵及び米需給均衡化緊急対策他用途利用米864俵に係るとも補償補助金のうち、県、農協分を除いた生産者分について市が補助するものであるとの説明がありましたが、さらに、国の農業政策のしわ寄せが市に転嫁されているように考えられるので、今後米の自由化の問題も懸念される折、国に対し強く訴えるべきであるとの意見がありました。

次に、商工費中、千葉コンベンション推進協議会負担金50万円が計上されていますが、協議会の内容について説明を求めましたところ、8月29日に設立、来年の10月にオープンする幕張メッセの推進母体を

法人化するための準備団体で、施設への展示会、催し物、国際会議等の誘致、調査、企画、情報の収集と提供、県内の宿泊施設、観光施設の情報収集等を行うものであるとの説明がありました。

さらに、負担金の根拠については、経済的波及効果を考慮したものであって、ちなみに近隣市では鴨川が100万円、木更津、君津、富津は30万円であるとの説明がありました。

次に、土木費中、館山運動公園整備事業負担金として1億5980万円が減額補正され、その理由として体育館建設の一部が次年度に繰り越されたためであるとの説明がされておりますが、関連して、野球場についても、公式戦の使用ができるよう県に要望されたいとの意見がありました。

次に、災害復旧費について、各事業については来年の3月までに工事を完了する予定で進めているとの説明があり、迅速、適切な処理をされるよう要望するとともに、さらに関連して、民地の災害復旧に対する考え方を伺いましたところ、道路、河川、港湾等公共のものに対して市は対応しており、民地の場合は管理者の負担となる。今回の二子、宝貝の事業については土砂崩壊防備保安林の保全ということでの事業であるとの説明がありました。

採決の結果、付託を受けました議案第43号、議案第44号及び議案第47号については全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、本委員会における審査の概要を御報告申し上げ、総務委員会委員長報告を終わります。

○議長（飯田義男君） 以上で、委員長の報告は終わりました。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

○議長（飯田義男君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

(1 1 番議員神田守隆君登壇)

○ 1 1 番 (神田守隆君) 議案第 4 7 号昭和 6 3 年度館山市一般会計補正予算第 3 号について反対の討論をいたします。

今回の補正は、災害復旧や職員の給与改定など当然賛成すべき内容がありますが、千葉コンベンション推進協議会負担金については、重大な問題点があり賛成できません。

第 1 点は、千葉コンベンション推進協議会への参加目的がはっきりしないことであります。なぜ市が参加する必要があるのか、真に市民の福祉向上に寄与することになるのか大変に疑問だと言わざるを得ません。

第 2 点は、その負担金 5 0 万円の算出根拠があいまいなことでもあります。千葉コンベンション推進協議会の予算 3 2 0 0 万円に対して、館山市が会員負担として 5 0 万円を負担するというものであります。例えば幕張メッセに近いと思われます木更津、君津、富津などが 3 0 万円なのに対し、鴨川は 1 0 0 万円など負担の算出根拠が全くわからず、5 0 万円の算出根拠に合理的理由は見当たりません。

第 3 点は、財団法人千葉コンベンションビューロー設立時の市の負担が莫大なものになりかねない点であります。千葉コンベンション推進協議会は、財団法人千葉コンベンションビューローの設立準備を進めるとしています。準備を進める推進協議会の予算 3 2 0 0 万円ではありますが、財団法人千葉コンベンションビューローの設立資金は横浜を上回る規模とのことでありましたが、だとすれば、7 億円を上回る規模であり、市の負担も 1 0 0 0 万規模になりかねません。果たして、千葉コンベンション事業が地域振興につながるものか、つながるとしても、その効果はどの程度のものかなど慎重に検討をされるべきであります。

以上の点を指摘し、この千葉コンベンション推進協議会負担金に反対し、反対討論といたします。

○議長 (飯田義男君) 神田守隆君の討論を終わります。

以上で、通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（飯田義男君） これより採決いたします。採決は分割して行います。

まず、議案第43号及び議案第44号について一括して採決いたします。

議案第43号及び議案第44号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、議案第43号及び議案第44号の各議案は、いずれも原案どおり可決されました。

次いで、議案第47号昭和63年度館山市一般会計補正予算第3号について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（飯田義男君） 起立多数であります。よって、議案第47号は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（飯田義男君） 日程第2、議案第48号昭和63年度館山市国民健康保険特別会計補正予算第2号を議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

○議長（飯田義男君） ただいま議題となりました議案第48号は、12月16日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。よって、これより本議案に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長石井 謀君。御登壇願います。

（文教民生委員会委員長石井 謀君登壇）

◎文教民生委員会委員長（石井 謀君） ただいま議題となりました議案第48号昭和63年度館山市国民健康保険特別会計補正予算第2号に係る文教民生委員会における審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る12月16日開会の本会議において本委員会に付託されました議案等について、19日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等につきまして主なる事項を申し上げます。

今回の補正については、説明によると、交付基準額の引き下げにより交付対象件数の増に伴う拠出金の増とあるが、その引き下げられた額について、さらにそれに伴って共同事業全体の財源はどうなるか説明を求めましたところ、当初予算では1件150万円を超える額を基準対象にしたが、法改正により80万円に引き下げになったもので、引き下げに伴っての対象財源は約16億が見込まれ、そのうち連合会で8億の拠出となり、さらに連合会に対し同額が県から交付されるものであるとの説明がありました。

次に、関連して、医療費の動向、国保税の収納状況から来年度の国保会計の見通しはどうか説明を求めましたところ、9月までの月平均の支出済額を対予算で比較すると91.5%の支出となっており、このまま推移した場合、現段階で療養給付費約1億余円の剰余金が見込まれる。本年度予算計上時の状況等からみて、国保会計にとって期待できるのではないか。なお、保険税の収納については、11月末現在で約2%前年度より伸びているとの説明がありました。

採決の結果、付託を受けました議案第48号昭和63年度館山市国民健康保険特別会計補正予算第2号につきましては、全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上で、文教民生委員会委員長報告を終わります。

◎議長（飯田義男君） 以上で、委員長の報告は終わりました。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

○議長（飯田義男君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（飯田義男君） これより採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○議長（飯田義男君） 日程第3、議案第45号、議案第46号及び議案第49号の各議案を一括して議題といたします。

建設経済委員会委員長報告

○議長（飯田義男君） ただいま議題となりました各議案は、ともに12月16日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長川名正二君。御登壇願います。

（建設経済委員会委員長川名正二君登壇）

○建設経済委員会委員長（川名正二君） ただいま議題となりました議案第45号、議案第46号及び議案第49号に係る建設経済委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る12月16日開会の本会議において、本委員会に付託されました議案等について、20日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等につきまして主なる事項を申し上げます。

まず、議案第45号館山市神余農道、大井農道及び竹原農道災害復旧事業分担金徴収条例の制定についてであります。

分担金を納入しない者に対する延滞金の規定があるが、過去の分担金

徴収条例においてそのような事例があったのかとの問いに対し、そのような事例はなかったとの説明がありました。

次に、第6条分担金の減免等の規定中、災害その他特別の事由があると認める場合とあるが、災害復旧条例の中で、さらに災害の場合減免するとはどういうことかとの質問に対しまして、本条例の適用を受けて事業を施行している間、さらに災害を受けた場合の減免規定であるとの説明がありました。

次に、災害復旧事業の施行にあたり、受益者負担の考えを取り入れ、分担金を徴収することは、法の拡大解釈ではないかとの質問に対し、条例により分担金を徴収できるものとして土地改良事業費分担金、防災ダム事業費分担金、鉍毒対策事業費分担金、農業施設災害復旧事業費分担金等があり、それを受けて今回提案したものであるとの説明がありました。

さらに、災害復旧により、特に利益を受けるとはどういうことかとの質問に対し、災害箇所を主に利用して耕作しているものは、災害箇所の復旧により利益を受けると理解しているとの説明がありました。

次に、討論において、地方自治法に基づく分担金は任意事項であり、徴収しなければならないものではない。市道については全額公費でまかなわれており、行政の公平の面からも問題がある。館山市政は市街地中心との声もあり、この地域に限って分担金を徴収することは、市民感情から適切でないとの反対意見がありました。

次に、議案第46号館山市宝貝及び二子治山事業分担金徴収条例の制定についてであります。討論において、第6条分担金の減免等の規定中、災害の字句は不的確であり、削除を要望するとの意見がありました。

採決の結果、議案第45号については賛成多数をもって、議案第46号及び議案第49号については全員一致をもって、いずれも原案どおり可決すべきものと決しました。

以上、本委員会における審査の概要を申し上げ、建設経済委員会委員長報告を終わります。

○議長（飯田義男君） 以上で、委員長の報告は終わりました。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なし

と認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

○議長（飯田義男君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

21番議員辻田 実君。御登壇願います。

（21番議員辻田 実君登壇）

○21番（辻田 実君） 議案第45号に対しまして、反対の討論をいたしたいと思ひます。

ただいま、建設経済委員長の方から報告がございましたように、今回神余、大井、竹原等におきますところの災害に対しまして、その分担金条例が提案されているわけでございますけれども、この点につきましては、現状の館山市の中におきまして分担金を取ることは適切ではないのではないか、こういうふうに思ひますので、この観点から御意見を申し上げたいと思ひます。

去る9月25日の夜半の大雨による災害は、市内全域にわたりまして221カ所に及んでおります。まず、この多くの被災者にお見舞いを申し上げたいと思ひます。

この中でも、特にひどかった5カ所につきましては、国の災害復旧補助金を受けることができました。その中でも農道の3カ所、すなわち神余、大井、竹原については、事業費の総額から国の補助金の額を控除した額に分担金が徴収されようとしておるわけでございます。しかし、この分担金は法律的に見ても、人道的な立場から見ましても、被害者から徴収することは、私は許されることではないというふうに思ひます。したがって、次の理由から条例に反対をいたしたいと思ひます。

1つは、条例の根拠になっている地方自治法第224条の規定でございます。この規定は、特に利益を受ける者から、その利益の限度において分担金を徴収することができるというものでございまして、災害による復旧は、各種の文献を調べても、利益とは解釈できません。したがって、この法律の適用には無理があるというふうに思ひます。

建設経済委員会の中におきますところの討議の状況は、委員長から報

告がございましたように、市は、この場合の利益というのは、災害を受けた時点で、災害状況から元に復するという過程が利益だという答弁をされておったわけでございますけれども、これはあまりにも法の便宜的な解釈であって——災害の復旧で元に戻る、確かに元に戻る部面はありますけれども、これに対して利益という言葉は、日本語の中には私は存在しないというふうに思います。しかしながら、日本語でございますから、解釈によっては——災害で非常に痛められているわけですから、そこから元に戻る、この場合には、それから見ればある程度復旧できた、これを利益というんだ、これはどうしてもこじまげ以外の何ものでもない、こういうことは災害者に対して押し通すべき問題ではないというふうに私は思います。

第2番目は、12月16日の本会議、20日の建設経済常任委員会の中で、延べ2時間30分にわたり質疑をかわしました。しかし、災害復旧事業費の一部に分担金の徴収を義務づけている法律、規定は全く見当たりませんでした。したがって、市民税や固定資産税のように、分担金を徴収する必要は認められません。

3番目は、法律や規定がなくても、市長が条例を作成し、議会の承認を得れば、たとえ災害の分担金であっても、合法的に徴収することはできます。しかし、これは次の理由から行うべきではないというふうに私は思います。

その1つは、9月25日の被害は、221カ所のうち市道等土木災害復旧費8764万円は、国の補助金を控除した額、すなわち2935万円は全額市費でまかなっておるわけでございます。これに対しまして、農道の災害復旧費582万円については、国の補助金を控除した額の半分、すなわち102万円を神余の17戸の農家、竹原の6戸の農家、大井の6戸の農家、合計29戸の農家から、平均にいたしますと、1人当たり3万5000円の分担金を徴収するということでございます。このことは地域と市街地という格差であり、また不公平を生み出していることでございまして、こうしたことは政治の公平という観点から行うべきではない。

2番目に、市道の復旧には分担金がなく、農道の復旧には分担金を徴

収するということでは農家を苦しめることになります。現在の館山市は農村でも市街地と同じ都市計画税0.3%が平等に課せられておるわけでございます。それなのに、農道の災害復旧だけは分担金を課するけれども、市道の災害復旧に対して、同じ災害復旧でも分担金を取らない。こういうことでは、都市計画税を納入している観点から見ても、あまりにも非合法であり、農村の人たちがかわいそうである。農村の人たちは都市計画税を納めていても、都市計画事業はほとんど農村ではないといわれている。災害が起これば市街地は市費でやってくれるけれども、農村部では負担金を出さなければいけない。慣例化されているということは本当に大変なことで、そうした農村の声は非常に多くあります。

私は昨日、これらの被災者の現場並びに農家の方々回りました。その方々が一様に言っていることは「市でやってもらうことは非常にいいことだ、国の補助金が70%あるから、残りの一部に負担金を出してもらえないか」という相談を受けたので、そのぐらいのことは何とかいたしますから、この復旧をしていただきたい。こういうお願いはいたしました。しかしながら、本当はこれだけ被害を受けていて負担金を出すのは耐えられない。ところで、負担金の額は幾らになるんですか」こういうことを逆に聞かれまして「あなた方は負担金の額についてある程度話し合いがついているんでしょう」と言ったら、「額は聞いていません」、「1世帯当たり3万5000円ぐらいになるんです、場所によってはもっと多くなるところもあるし、場所によっては少なくなるかもわかりませんが、平均3万5000円です。」、「ずいぶん大きいな、これを納めるのにおおごとだ」と言っている。「しかし、分担金を納めないと災害復旧してもらえないということでは、あぶはちとらずになってしまうので、泣く泣く納めるけれども、少しでも安くしていただきたい。災害によって起きた事業ですから」と、本当に切ない声をしておりました。農家の人たちは「市の言うことに対して文句を言ったり、反対すると後でもってしっぺ返しをくったり、立場が悪くなるから言いません。その点町場の人はいいいですね、すぐ反対、反対といって反対すれば負担金を納めなくて済むんですから、農家はそうはいかないんです。別に市のやることについては反対しませんけれども、負担金を出すのはつらい

です」と、本音のことを言っておりまして、こうしたことをそうだからといって、無視するということで行ったら、大変なことになる。そういう不信は出ております。

この条例は、あたかもそういうことを決定的に決めつけるような法律になると思う。市の方はたった100万円じゃないかといいますけれども、たった100万円のところに問題がある。市街地の3万5000円と、農家の3万5000円では値打ちが違う、負担割合が違うんです。現金収入がないところですから、そこら辺を考慮していただきたい。

私は、百歩譲りまして、地方自治法の224条を適用することについて了解をいたします。しかし、この法律は分担金を徴収することを義務づけているものではございません。特に利益がある場合にのみ、利益の範囲で徴収することができるし、またしなくてもよいものでございます。

市の財政状況から見て、特に102万円の分担金を徴収しなくては、市の財政がどうにもならないという状況ではないというふうに思うのでございます。今回の補正予算に提案されておりますように、造形作品購入費200万円が計上されております。これは城山公園に彫刻の作品を追加することを内容としたもので、先ほどの質疑の中で、作者とか、そのものはわかっておられないけれども、これぐらいの予算を計上しないと3月末まで買えないので、文化都市としてぜひ予算化していただきたい。

私は、文化都市の面からも賛成でございまして、しかし、災害による復旧費102万円を、災害で困っている農家から分担金として徴収するということは、やはりできないと思う。これをてんびんにかけて、今回の議案書におきましては、文化財の購入と災害の分担金は、議案書の25頁と26頁に同時に提案されているわけです。挑発的に出されたのかといわれるぐらい、文化の方については金は幾らでも出す、しかしながら、農業については被災者だって金は出さないで分担金を取る。こういうことを突きつけられているとしか理解できないわけでございます、この点については慎重に考えて対処していただきたい。

以上でございまして、どうか市長さんにおかれましては、分担金の徴収はできるだけやめて、被災者に対しては見舞いの精神、人道の精神であたっていただきたい。議員の皆さんにおかれましては、災害で困っ

ている農家から分担金を徴収するというふうなことでは筋が通らないと思います。議員の良心、正義にかけても——分担金だけは徴収しないで済ませる状況にあるわけですから、この点については御対処していただきますことを切にお願い申し上げまして、私の討論にかえさせていただきます。よろしくお願い申し上げます。

○議長（飯田義男君） 辻田 実君の討論を終わります。

以上で、通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（飯田義男君） これより採決いたします。採決は分割して行います。

まず、議案第45号館山市神余農道、大井農道及び竹原農道災害復旧事業分担金徴収条例の制定について起立により採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（飯田義男君） 起立多数であります。よって、議案第45号は原案どおり可決されました。

次いで、議案第46号及び議案第49号について一括して採決いたします。

議案第46号及び議案第49号についての委員長の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、議案第46号及び議案第49号の各議案は、いずれも原案どおり可決されました。

請願書の上程

◎議長（飯田義男君） 日程第４、請願第１４号及び請願第１５号の各請願を一括して議題といたします。

文教民生委員会委員長報告

◎議長（飯田義男君） ただいま議題となりました各請願は、１２月１６日の本会議において文教民生委員会に付託されたものであります。

よって、これより各請願に対する文教民生委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長石井 謀君。御登壇願います。

（文教民生委員会委員長石井 謀君登壇）

◎文教民生委員会委員長（石井 謀君） ただいま議題となりました請願第１４号及び請願第１５号に係る文教民生委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

まず、請願第１４号旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する請願書については、採決の結果、全員一致をもって採択すべきものと決しました。

次に、請願第１５号公立学校事務職員・栄養職員の給与の国庫負担削減に反対する請願書であります。市内小・中学校における事務職員、栄養職員等の配置状況と、さらに、それに加えて市単独で配置しているところがあるか説明を求めましたところ、事務職員については全校に、栄養職員については２名、養護教諭については神余小を除いた各校にそれぞれ配置しており、さらに２中、３中、北条小、館山小の事務職員４名を市単独で配置しているとの説明がありました。

採決の結果、本請願についても全員一致をもって採択すべきものと決しました。

以上で、文教民生委員会委員長報告を終わります。

◎議長（飯田義男君） 委員長の報告は終わりました。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（飯田義男君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（飯田義男君） これより採決いたします。採決は一括して行います。

請願第14号及び請願第15号についての委員長の報告は採択であります。

各請願を委員長の報告どおり採択と決しますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、請願第14号及び請願第15号の各請願は、いずれも採択と決しました。

日程の追加

○議長（飯田義男君） お諮りいたします。

ただいま採択されました請願書に付帯して発議案第6号旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する意見書について及び発議案第7号公立学校事務職員・栄養職員の給与の国庫負担削減に関する意見書についてが提出されました。

この際、各議案を日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、各議案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の上程

○議長（飯田義男君） 発議案第6号及び発議案第7号の各議案を一括して議題といたします。

議案を配付いたさせます。

（議案配付）

○議長（飯田義男君） 議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（飯田義男君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

○議長（飯田義男君） 提出者の説明を求めます。

（17番議員石井 謀君登壇）

○17番（石井 謀君） ただいま議題となりました発議案第6号旧軍人軍属恩給欠格者救済に関する意見書及び発議案第7号公立学校事務職員・栄養職員の給与の国庫負担削減に関する意見書について一括して提案理由を御説明申し上げます。

各議案につきましては、ただいま採択されました請願書の趣旨をそれぞれ関係機関に要望いたしたく、お手元に配付のとおり、いずれも8名の賛成者を得まして提出いたした次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

○議長（飯田義男君） 説明は終わりました。

質疑応答

○議長（飯田義男君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（飯田義男君） お諮りいたします。

各議案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、各議案につい

ては委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

○議長（飯田義男君） これより討論を行います。

討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（飯田義男君） これより採決いたします。

採決は一括して行います。

各議案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、各議案は原案どおり可決されました。

請願書の上程

○議長（飯田義男君） 日程第5、請願第16号米の市場開放阻止に関する請願を議題といたします。

建設経済委員会委員長報告

○議長（飯田義男君） ただいま議題となりました請願第16号は、12月16日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより本請願に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長川名正二君。御登壇願います。

（建設経済委員会委員長川名正二君登壇）

○建設経済委員会委員長（川名正二君） 建設経済委員会におきます請願の審査結果について御報告申し上げます。

本委員会に付託されました請願第16号米の市場開放阻止に関する請願書について、20日招集の委員会において審査をいたしましたところ、

全員一致をもって採択すべきものと決しました。

以上、御報告申し上げます。

◎議長（飯田義男君） 委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

◎議長（飯田義男君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

◎議長（飯田義男君） これより採決いたします。

本請願についての委員長の報告は採択であります。

本請願を委員長の報告どおり採択と決しますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本請願は採択と決しました。

日程の追加

◎議長（飯田義男君） お諮りいたします。

ただいま採択されました請願書に付帯して発議案第8号米の市場開放反対に関する意見書についてが提出されました。

この際、本案を日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の上程

○議長（飯田義男君） 発議案第8号米の市場開放反対に関する意見書についてを議題といたします。

議案を配付いたさせます。

（議案配付）

○議長（飯田義男君） 議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（飯田義男君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

○議長（飯田義男君） 提出者の説明を求めます。

（19番議員川名正二君登壇）

○19番（川名正二君） ただいま議題となりました発議案第8号米の市場開放反対に関する意見書について提案理由を御説明申し上げます。

本案につきましては、ただいま採択されました請願書の趣旨を体しまして関係機関に意見書を提出いたしたく、お手元に配付のとおり8名の賛成者を得まして提案いたした次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げまして、提案理由の説明といたします。

○議長（飯田義男君） 説明は終わりました。

質疑応答

○議長（飯田義男君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（飯田義男君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(飯田義男君) 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

○議長(飯田義男君) これより討論を行います。

討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長(飯田義男君) これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(飯田義男君) 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議長の報告

○議長(飯田義男君) なお、この際申し上げます。

各常任委員会における陳情審査結果が報告されております。お手元に配付の印刷書により御了承願います。

議案の上程

○議長(飯田義男君) 日程第6、発議案第5号法務局職員の増員に関する意見書についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

(書記朗読)

○議長(飯田義男君) 朗読は終わりました。

議案の内容説明

○議長(飯田義男君) 提出者の説明を求めます。

(14番議員小宮利夫君登壇)

○14番（小宮利夫君） ただいま議題となりました発議案第5号法務局職員の増員に関する意見書について提案理由を御説明申し上げます。

本案につきましては、陳情審査結果報告のとおり、本委員会において了承できるものと決定されました陳情書の趣旨を関係機関に要望いたしたく、お手元に配付のとおり7名の賛成者を得まして提出いたした次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げまして、提案理由の説明といたします。

○議長（飯田義男君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

○議長（飯田義男君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○議長（飯田義男君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

○議長（飯田義男君） これより討論を行います。

討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○議長（飯田義男君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長（飯田義男君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

閉 会 午前 11 時 08 分

○議長（飯田義男君） 以上で、本定例会に付議されました案件は議了いたしました。

よって、これにて第 4 回市議会定例会を閉会いたします。

○本日の会議に付した事件

- 1 議案第 43 号乃至議案第 49 号
- 1 請願第 14 号乃至請願第 16 号
- 1 発議案第 5 号
- 1 日程追加・発議案第 6 号
- 1 日程追加・発議案第 7 号
- 1 日程追加・発議案第 8 号

地方自治法第 123 条第 2 項の規定により署名する。

館山市議会議長 飯 田 義 男

館山市議会議員 鈴 木 忠 夫

館山市議会議員 石 井 謀

